

## 第6回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事録

日 時：平成19年12月26日（水） 15：00～17：00

場 所：非破壊検査（株） 本社 9階会議室

出席者：鎌田会長、森幹事、永山幹事、内田会員、藤原会員、松沢会員、吉田（記録）  
以上7名（順不同、敬称略）

配布資料：6-0 第6回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事次第

6-1 第5回 大阪・構造物非破壊診断交流会（ONDA） 議事録（案）

6-2 コンクリートの非破壊試験に関する「よくある質問」集：鎌田会長

6-3 JCI 読者コーナー：内田会員

議 事：

### 1. 会長挨拶

開催の挨拶が鎌田会長よりあった。

### 2. 第6回議事次第

鎌田会長より、本日の交流会の進め方について説明があった。

### 3. 第5回議事録（案）の確認

内田会員より説明があり、内容確認が行われ承諾された。

### 4. 話題提供

- (1) 鎌田会長より、コンクリートの非破壊試験に関する「よくある質問」集（土木学会 コンクリート委員会339委員会における検討課題）についての説明があった。339委員会の委員がこれまでに経験した非破壊試験に関する質問（特に、原理的・条件的に非破壊試験が不可能な質問）から、数例の紹介があった。非破壊試験についての正しい共通理解を得るため、今後、書籍等にまとめる予定との説明があった。
- (2) 内田会員より、「非破壊試験による鉄筋の腐食および鉄筋周りのはく離評価手法」についての紹介があった。コンクリート表面に非接触で設置された励磁コイルに瞬間的に電流を流して鉄筋を振動させ（電磁パルス発振）、コンクリート表面に取り付けたセンサーで弾性波を受振する事により、鉄筋コンクリート中の腐食によって生じた鉄筋周りのはく離状態を評価する方法である。鉄筋周囲にはく離が生じている場合は、鉄筋の振動がコンクリートに直接的に伝わらないため、受振される弾性波の振幅値が小さくなる。腐食電流を与えることで鉄筋を腐食させた試験体を用いて実験を行った結果、腐食の進行（自然電位測定により腐食度を評価）にともない受振される弾性波の振幅値比は小さくなった。今後は実環境を考慮した検討が必要であるとの説明があった。
- (3) 藤原会員より、「弾性波法による床版厚測定の試行」と題し、床版下面から弾性波法により床版厚を測定し、上面の劣化状況（舗装の浮き・剥離）を評価しようと試行した結果が紹介された。結論として、実測定においては、劣化部において健全部と同等の伝播速度が検出されるなど、正確な測定ができない場合があった。これは、反射面の形状、ひび割れ、鉄筋の干渉、材質な

どの影響を受けている事が原因と推定された。今後、実構造物（床版）から切り出した試験体を用いて、検討を続ける予定との説明があった。

#### 5. 日本コンクリート工学協会 読者コーナーへの投稿について

内田会員が執筆した「何事も経験！ONDA 事務局奮闘記」が、コンクリート工学 2008 年 2 月号の読者コーナーへ掲載される予定との案内があった。ONDA ホームページへの多数のアクセスが予想されるため、次回の交流会でホームページの内容を再考する事となった。

#### 6. 今後の予定

第 7 回交流会：平成 20 年 2 月 6 日（水） 15：00～17：00

場所：(財) 日本建築総合試験所

以上

(記録：吉田)